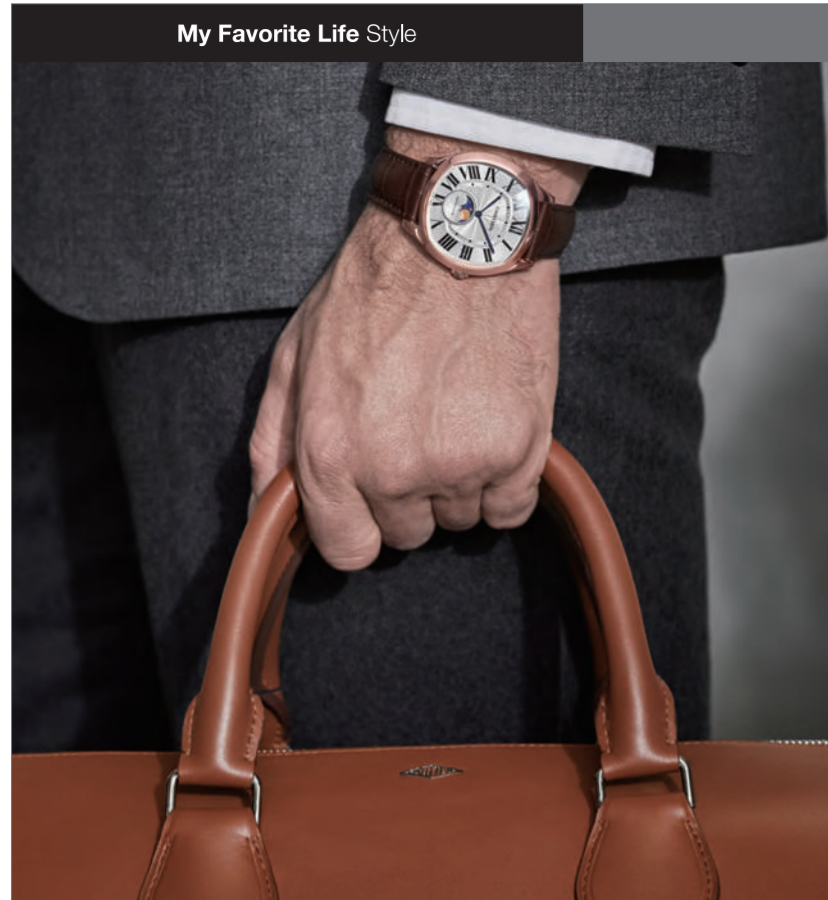


BIZ [ビズスタ] Life Style



タイムレスな引力。
カルティエ。



My Favorite Life Style

John Balsom © Cartier

ドライブ ドゥ カルティエ ムーンフェイス ウォッチ



CRWGNM0008
40×41mm、ピンクゴールド
2,473,200円(税込)

CRWSNM0008
40×41mm、ステンレススティール
915,300円(税込)

Vincent Walverlyk © Cartier

Panthère de Cartier

パンテール ドゥ カルティエ



30年後の世界に再び響く女性賛歌。

それは年輪を感じさせる豊かな知性であったり、あるいは何ものにも囚われない自由な生き方であったり。大人の趣味の代表的分野である高級機械式腕時計の世界は、時を告げる機械に「デザイン」という概念が産まれたことで一気に深みを増した。時間を知る道具を服のように「着る」現在のウォッチの愉しみは、このメソンの功績が極めて大きい。

実に15を数えたという各国王室の御用達であったことから「王の至宝商、宝石商の王」と讃えられた「カルティエ」は、1847年パリで創業した。機構の誕生以来、時計業界は「いかに精緻なメカニズムであるか」を長く競い合ってきたが、カルティエは「美を味わう」というその後のスタイルを決定付けたのだ。

腕時計のブランドは、一般にムーブメントと呼ばれる機構部分の製造技術に有するウォッチメーカーと、それを包むケース部分を手がけるジュエラーに大別できる。ウォッチの大半は、両者が専門外の部分を委ね合いながら製品化されている。貴金属の分野で確固たる地位を築いたカルティエは、ジュエラーの代表格だったが、やがてムーブメントへの世界へと進出。すべての製造工程を自社内で完結することができた。世界でも数少ない「モノコック・チュール」へと成長を遂げ、現在に至っている。

80年代の名作が突如登場。世界が驚いた新作コレクション。女性向けのジュエリーウォッチ

自然体で、自立し、エレガントに洗練された大人を描いた名品

Drive de Cartier

自然体でいて、洗練。カルティエが描く、これからの男性像。

今年「パンテールドゥカルティエ」の発表で沸いた「H.H.H」だが、昨年の会場の話題をさらったのは、カルティエの男性向けコレクションだった。「ドライブドゥカルティエ」は、1904年から現在に至るリストウォッチ製造技術の集大成として、大きな反響を獲得。たちまちベストセラーの角を占めるに至った。今年の「H.H.H」はその地位をさらに固めるべく、新たな意匠を発表されている。

新作を見る前に「ドライブドゥカルティエ」の概略を簡単にさらしてあげよう。古典的なクッション型を現代的な解釈で再構築したケースによく見ると「ヘクソン」(八角形)を描く美しいベゼル。優雅なローマン・テックスと剣型針。ギョムシ彫りのダイヤル。瞬間的にはレトロスウェーデンなデザイン性に見えてしまうが、じつくりと眺めていると、モダンなメカニズムが露気楼のように昇り立つてくる。いつも自然体のようには見えて、その奥には洗練された知性と先端のライフスタイルを内包する...そんな現代の男性像が浮かび上がるウォッチに仕上がっている。

衝撃のデビューから一年を経て発表された新作コレクション

毎年、後に「名品」と讃えられるモデルを送り出すカルティエ。次は、今年100周年を迎える「コレクション」を紹介しよう。

「自分」を妥協しない男性たちへ。

ドライブ ドゥ カルティエ エクストラフラット ウォッチ

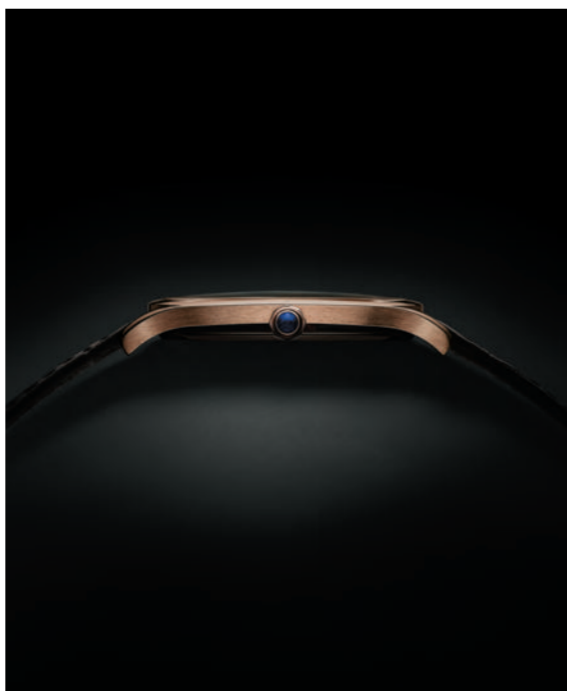


CRWGNM0006
38×39mm、ピンクゴールド
1,814,400円(税込)

Vincent Walverlyk © Cartier



John Balsom © Cartier



パンテール ドゥ カルティエ ウォッチ



CRWSPN0007
27mm×37mm
MM、ステンレススティール
510,300円(税込)

Vincent Walverlyk © Cartier



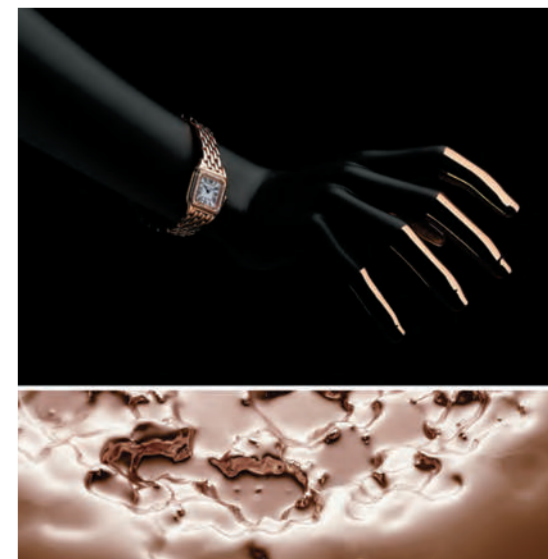
CRWGPN0008
22mm×30mm
SM、イエローゴールド
2,214,000円(税込)



CRW2PN0006
22mm×30mm
SM、イエローゴールド、ステンレススティール
815,400円(税込)



CRWJPN0008
22mm×30mm
SM、ピンクゴールド、ダイヤモンド
2,624,400円(税込)



Eric Sauvage © Cartier

My Favorite Life Style

TANK

| タンク ウォッチ



タンク アメリカン ウォッチ
CRWSTA0032
27x15.20mm、ミニ、スチール
364,500円(税込)
2017年11月発売予定



タンク アメリカン ウォッチ
CRWSTA0016
34.80x19mm、SM、スチール
464,400円(税込)



タンク フランセーズ ウォッチ
CRW4TA0008
25.35x20.30mm、SM、スチール、ダイヤモンド
785,700円(税込)



タンク ルイ カルティエ ウォッチ
CRWGTA0011
33.70x25.50mm、LM、ピンクゴールド
1,458,000円(税込)

Vincent Walverlyck © Cartier

伝説は、静かに呼吸を続ける。タンク ウォッチの100年。

ルイ・カルティエ本人が手がけた
1917年のレジェンドウォッチ

さて、今年注目のカルティエウォッチをもつひとつ紹介しておこう。上に掲載したのは、同社の眩いウォッチコレクションの中でもひととき有名な存在のひとつである「タンクウォッチ」。その歴史は、ちょうど今から100年前の1917年にまで遡る。

時は第一次世界大戦中、3代目であるルイ・カルティエは戦車の平面図からインスピレーションを得て、自らデザインを手がける。「タンク」と名付けられたこのウォッチの試作品はアメリカのジョン・パーシング將軍に贈られ、2年後の1919年に正式に発売。平和への切実な願いを込めながら一方ではカルティエらしい豊かな美を詰め込んだこのモデルはたちまち人気を集め、やがてメソンのアイコンとして長く愛され続けることになる。

男性にも女性にも愛され続ける
アイコン的なコレクション

そのデザインを検証するには、まずシャープな角を持つフラットなケースの縦枠に注目してみるとよいだろう。下アタッチメントとの接点が隠されており、非常にシンプルなラインを形成していること

がよく分かる。自由でエレガントなエスプリは、カルティエらしさと同時にフレンチデザインの特徴でもあると言えるだろう。

タンクのコレクションには、いくつかのバリエーションが派生しており、現在は男女兼用モデルを中心に展開されている。写真右の「タンク ルイ カルティエ ウォッチ」は、ルイ自身も愛用したというオリジナルに最も近いデザインが保たれたモデルだ。左の2つは、上下方向のサイズを大胆に増して優美さを強調した「タンク アメリカン」。やはり男女兼用で、ミニモデルも追加された。中央右の「タンク フランセーズ」は、リストウォッチというよりもブレスレットウォッチと呼びたくなる美しさだ。今年で誕生100年となる「タンク」コレクション。今後がますます楽しみだ。

* * * *

ここまで駆け足で今年の注目コレクションを紹介してきたが、カルティエの世界観は、文字や写真だけで半分も伝わらないだろう。手に取って眺め、腕に着けて確認すれば、人々が同社の製品を手放さない理由を感覚で理解できるはずだ。実物は下記店舗で体感できるので、ぜひ「美の高峰」の世界を覗いてみよう。

Biz Life Style Pick up >>>

香川県内唯一の正規販売店が「カルティエ ウォッチコレクション - クリスマス2017-」を開催



EYE EYE | SUZU

アイアイイズズ
香川県高松市多肥下町1523-1
TEL.087-864-5225 営業時間/11:00~20:00 無休

カルティエの美の世界は、文字と写真ではその魅力の半分も伝わらない。県内唯一の正規販売店が高松市にあるので、実際に手に取ってことをおすすめしたい。「アイアイイズズ」は、全国でも屈指の品揃えを誇るカルティエコーナーを展開中。最新のコンセプトに基づくディスプレイとともに、新作から定番モデルまで豊富なコレクションが揃う。12月1日~24日には、クリスマスシーズンの特別フェアの開催も決定。期間中は展示も強化されるので、大切な人へ、そして自分へのプレゼント選びに最適だ。人々を虜にするカルティエの世界観を肌で実感する絶好の機会。フェアの詳細は下記まで。

取り扱いブランド

カルティエ、ランゲ&ゾーネ、ヴァシュロン・コンスタンタン、オーデマ ピゲ、IWC、ジャガー・ルクルト、パネライ、ブレゲ、ハリー・ウィンストン など

www.eye-eye-isuzu.co.jp

カルティエ カスタマー サービスセンター
フリーダイヤル 0120-301-757
受付時間/10:00~20:00 無休(年末年始を除く)

www.cartier.jp